

# ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.28 2010年6月

第27回理事会・第10回通常総会を開催 新会長に槍田三井物産会長が就任	2
2009年度(平成21年度)事業報告、正会員等の入会	2
2010年度(平成22年度)事業計画	5
2009年度(平成21年度)決算及び2010年度(平成22年度)予算	6
役員等	6
<hr/>	
ABIC創立10周年—記念事業の実施	7
10年の活動実績/活動会員数推移	9
<hr/>	
<b>政府機関関連への協力</b> La Rioja (ラ・リオハ) にて	10
<b>外国企業支援</b> FOODEX メキシコ企業を支援して— 雑感あれこれ	11
<b>プロジェクトの受託</b> 在日ブラジル人子弟の支援活動について	12
<b>教育</b> 『知っておきたい外国為替の常識』 明治大学リバティアカデミー発行 —ABIC講師による外国為替の教科書、今年も継続発行	14
<b>留学生支援</b> 東京国際交流館 春の新入館者歓迎バザー	15
<hr/>	
<b>エッセー</b> 日本語教師としてベトナムへ	16
<hr/>	
<b>新刊紹介</b> 『新・航空事業論』—エアライン・ビジネスの未来像—	13
『「開かれた地域主義」とアジア太平洋の地域協力と地域統合 ～APECの適切性と親和性についての実証的研究～』	14
『アフリカに賭ける ～ある商社マンの痛快人生～』	15
<hr/>	
2010年度ABIC事務局組織	17
新入会員(正会員)紹介	18
会員入会のお願い	18
法人・個人正会員/賛助会員一覧	18
会員入会/ABICの人材紹介・推薦のご案内	19

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)  
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル6階 社日本貿易会内  
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979  
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】  
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 403号室  
Tel & Fax : 06-4395-1188  
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

## 第27回理事会・第10回通常総会を開催 新会長に槍田松瑩 三井物産会長が就任

5月31日、日本貿易会会議室において第27回理事会並びに第10回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2009年度事業報告及び収支決算、②2010年度事業計画及び収支予算、③任期満了に伴う役員を選任、④正会員の入会、⑤名誉会長の推戴が審議され、いずれも原案通り承認されました。

会長として槍田松瑩 三井物産会長が選任され、勝俣宣夫会長（丸紅会長）は名誉会長に推戴されました。名鏡敬治 常務理事・事務局長（住友商事より出向）が退任し、後任として伊地知紀仁氏（双日より出向）が就任することが決まりました。名鏡事務局長は、今後は参与としてABICの活動を支援することになりました。

また、個人正会員に勝俣宣夫氏が入会。副会長には朝田照男 丸紅社長、藤岡正広 伊藤忠商事社長、小林健 三菱商事副社長執行役員（6月24日に社長就任）の3名が委嘱されました。



槍田会長



伊地知常務理事・事務局長

## 2009年度（平成21年度）事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 〈活動実績：H21年度 延べ人数 1,430名、 活動会員数：2,010名（H20年度末比216名増加）〉	活動実績 (延べ人数)	
			H21年度	H12～21 年度累計
政府機関 関連	ODA関連等への人材推薦・紹介、政府関係諸事業の受託、本邦中小企業支援関連への人材推薦・紹介、人材育成セミナー等への講師派遣等	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省任期付き職員（在外公館）・外務省領事シニアボランティアで17カ国、合計26名が常駐または中長期出張ベースで活動（ベトナム、インドネシア、カンボジア、インド、パキスタン、ウズベキスタン、コスタリカ、エルサルバドル、パナマ、コロンビア、アルゼンチン、モロッコ、チュニジア、アルジェリア、メキシコ、米国、豪州へ各機関からの派遣）。</li> <li>国内での活動：JETROの輸出有望商品発掘事業の受託、中小企業基盤整備機構の中小企業支援事業アドバイザー・販路開拓ナビゲーター、及びAOTSやOVTA等での研修講師、高齢・障害者雇用支援機構等への協力を継続。新規では、文部科学省拠出金支出案件（国際移住機関/IOM が執行）「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室／常総、下妻）」を受託し、3か年に亘り継続活動の見込みとなった。</li> <li>上記諸機関並びに経済産業省、近畿経済産業局、関東経済産業局等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件への対応であったが、推薦・紹介・受託による活動実績を伸ばすことが出来た。政府機関案件受託のコンサルタント会社への人材紹介が1件実現できた。</li> </ul>	102	694
NGO/ NPO等 非政府機関	NGO等への人材推薦・紹介、活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO国連世界食料計画WFP協会、国連工業開発機構/東京事務所等にアドバイザーとして、またNPO産業技術活用センター（日本経団連のメンター事業を協同推進）にメンター登録して適宜支援活動を継続。</li> </ul>	9	124
地方自治体・ 中小企業支援	地方自治体の推進する中小企業育成支援（販路開拓、海外ビジネス促進等）や農産品輸出促進・企業誘致等への協力、及び中小企業への直接支援・協力（海外進出・経営支援等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間業務委託契約締結先の地方自治体（千葉県/産業振興センター：8年目、和歌山県：4年目及び3年目2契約、山口県/産業振興財団：3年目、山梨県/産業支援機構：3年目、大分県及び福岡県2年目）との取組みが順調に推移した。</li> <li>継続支援・協力先の地方自治体関係で、東京都ビジネスナビゲーター（7年目）、大阪府アジアデスク（3年目）、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコア（7年目）の他、東京都商工労働部・外国人対応相談員、宮城県/埼玉県/神奈川県/三重県/兵庫県/島根県/愛媛県/福岡県の企業誘致や販路開拓アドバイザー等で活動。北海道の町興し事業にも引き続き協力した。千葉県本体（商工労働部）への事業協力も実現した。</li> <li>上記以外でこれまで活動実績のない地方自治体へのコンタクトを改めて行い（各所の商工労働部と農林水産部へのABIC紹介レター及びパンフレット送付に続けて、各所の東京事務所訪問）、来年度事業についての具体的な相談が寄せられ始めてきた。また、口コミ、ホームページ、会員経由等により、中小企業からの直接の支援要請も増加中。</li> </ul>	575	1,900
外国企業 支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に引続き、スペイン語圏在京大使館からのバイリンガル・ビジネス・アドバイザーの受注が増大した。新たに、外国企業の日本での販路開拓に協力した。</li> </ul>	56	240

活動分野	主要事業	主な活動状況 〈活動実績：H21年度 延べ人数 1,430名、 活動会員数：2,010名（H20年度末比126名増加）〉	活動実績 (延べ人数)	
			H21年度	H12～21 年度累計
教育	大学・ 社会人講座 等での 講座実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●30大学・組織へ講師派遣。年間講座数61、コマ数 1,040を実施。協力先団体の受注減による社会人講座の減少は回復しなかったが、大学講座を180コマ増やせ、講師数も増加した。引続き、講師の入替えや魅力ある講座の組立に注力した。</li> <li>●新規講座として 多摩大学、東海大学、また新規の英語での講座として 千葉大学大学院、名古屋外国語大学(別学部)、一橋大学 (H22年度短期留学生プログラム) を受注した。金沢大学を中心とした4大学グループが行う「eラーニング教員免許更新講習」運営に引続き協力した。</li> <li>●立命館アジアパシフィック大学 (H18年1月に包括協定締結) との関係強化が進み、ABICとして引続き最も多くの講座を提供。H19年度下半期開始の APU受託の経産省/文科省案件「アジア人材育成プロジェクト」へも、引続き講座運営・講師派遣で協力した。</li> <li>●文科省「ニーズ対応型中東研究」(一橋大中心。H 18～22年度)に引続き全面的に協力した。</li> </ul>	331	2,348
	国際 理解 教育支 援等	小中高校へ の講師派遣 在日外国人 児童への 日本語指導 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中高校生や教職員への講義・講演会へ引続き注力した。ゆとり教育の後退は同様だが、関係先増が図れた。</li> <li>●関西学院大学 (H15年2月に連携協力協定締結) 並びに青山学院大学との協力関係を進め、引続き海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」(一泊二日) を東西で実施した。また、H18年に関学との協働で始めて、H19年度から正課に昇格した高大連携授業の側面支援も引き続き行った。活動実績面では、それぞれの行事の事前講習が、参加高校の日程やり繰りの関係で実施出来ず仕舞いとなった。</li> <li>●多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導を引続き実施して評価を得た。新規に新宿区教育委員会に協力しての日本語指導も開始した。</li> </ul>	68
在日 留学生 支援	在日留学生 支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京国際交流館において、引続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。昨年度から始めた鎌倉ユネスコとの協働(鎌倉国際交流フェスティバル参加及び鎌倉散策) も継続した。</li> <li>●H18年度から開始した国際交流館在住の留学生家族支援(健康診断、子女入園・入学手続き等)が漸増し、大変感謝されている。</li> </ul>	128	745
国際 イベント 等	国際イベ ント等へ の協 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2009年世界卓球選手権横浜大会 (4月末～5月初) に26名が語学ボランティアとして活動。</li> </ul>	26	129
その他 活動・ 一般人 等	その他 活動・一般 求人等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会員会社の社会貢献事業への支援を継続 (三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」①新規奨学金供与プロジェクト、②学校支援事業フォローアップ等)。住友商事のベトナムでの日本語教育案件教師への人材紹介。</li> <li>●教育および留学生関係で、帝京大学/帝京平成大学/LEC大学教授・講師、東京外国語大学職員、東京学芸大学附属中等国際教育学校職員、科学技術国際交流センターつくば館長、EU Institute in Japan事務局長、幕張インターナショナルスクール事務局長として継続活動し、新規に政策研究大学院大学国際交流会館管理業務者が誕生した。その他、在ホーチミンのホテル支配人、タイ国ブロードバンド会社の日本支社アドバイザー等も継続し、新たに結核予防会の海外事務所経営支援も加わった。また、新機軸として、(独) 日本観光局主宰の善意通訳に65名が登録した。</li> <li>●ABIC日本語教師養成講座(第6期及び第7期) 教師に継続して会員が活躍した。</li> <li>●日本貿易会内の業務効率化支援として、午餐会、セミナーの講演録作成や新聞クリッピングへの協力を継続。</li> </ul>	135	425
合 計			1,430	7,167

活動会員 関係	活動会員 増強	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ABICの入会案内チラシを更新し(裏面にABIC活動紹介・実績を掲載)、引続き社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。また、活動会員へ電子データで配布して、知人への紹介を依頼した。</li> </ul>
	活動会員 スキル アップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度も大学・EC等 講座講師勉強会を実施した(東京9月2日 25名参加)。また、英語による講義の需要増大への対応として英語授業法勉強会を今年度は大阪で実施(東京8月31日30名、大阪10月19日20名。共に立命館大学教授を招聘)。</li> <li>●H18年10月から開講した日本語教師養成講座を継続し、第6期5名、第7期6名が修了証を手にした。第6期までの卒業生74名のうち約半数が、ボランティア主体で日本語講師を務めている。2名の卒業生が、海外で教える機会を得た(2～3ヶ月間)。</li> <li>●H18年度から開始のIT研修(NPOオクトマン・シルバー・パソコン倶楽部が協力)を継続中。</li> </ul>
	懇親会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京にて開催(例年版=平成21年7月2日/メルパルクホテル/約210名参加。10周年記念=平成22年3月26日/メルパルク/約240名参加)。大阪では例年3月開催を平成22年4月23日(於：丸紅ビル)に10周年記念懇親会として開催。約110名参加。</li> </ul>

<p>広報活動等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 7/11/3月）。</li> <li>●日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。</li> <li>●ABICパンフレットの邦文版を改定した（H22年3月）。会員勧誘チラシを10周年を機会に「ABIC 10年の歩み」として発行（H22年3月）。ホームページを順次更新した。</li> <li>●今年度も、(独) 高齢・障害者雇用支援機構等の主催、厚生労働省/NHK後援の「高齢者雇用フェスタ2009」にABIC専用ブースを出展し、来場者にABICの活動をPRした。初回の平成15年より参加。</li> <li>●新聞報道：①産経新聞（H21年7月20日）に「高校生国際交流の集い」紹介。②読売新聞（H22年2月15日）に勝俣会長がABICにつきコメント。</li> <li>●雑誌等：①経済広報（H21年8月号）の“日本貿易会活動報告”にABICについても紹介。②留学交流（(独) 日本学生支援機構。H21年9月号）に東京国際交流館でのABICの留学生支援活動紹介。③青山学院大学学報（H21年10月号）に共同イベント「日米高校生交流の集い」紹介。④日経ビジネス（H22年3月22日号）に日本貿易会が記事広告「日本貿易会が創設したABICが10周年」掲載。⑤丸紅グループ広報誌『SPIRIT』にABIC記事連載（H21年1月号から隔月1年間の予定を今年度も継続）。</li> <li>●今年度も、東京国際交流館主催の春・秋の新入館者歓迎会にてバザーを実施。また、夏の「交流館フェスティバル 2009」において、ABICが指導している華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーについては、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役員から多くの品物の寄贈を頂戴してほぼ完売となり、売上金の殆どを、夏祭りの浴衣や上記鎌倉日帰りツアー等の交流館の行事に役立てて貰うべく寄贈した。</li> </ul>				
<p>事務局関係</p>	<p>事務局体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーディネーター、プロジェクトスタッフの見直しを実施し、昨年度比2名増の22名とした（内1名は日本貿易会嘱託出向者の任期満了後にコーディネーターとして任用、1名は新規案件開拓のプロジェクトスタッフ [PS] として任用）。なお、在日ブラジル人子女教育支援の特定コーディネーター及びパートタイマーとして、複数名任用。</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>経理・総務：                      地方自治体・中小企業支援グループ：                      外国企業支援グループ：                      大学・EC講座グループ：</p> </td> <td style="width: 50%;"> <p>扇 文子、(橋本政彦)、宇佐見和彦 [PS]                      高廣次郎、佐藤 徹、野津 浩 [参与/PS=新規案件開拓]                      西山勝昭                      増田政靖、森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、                      恩田英治                      角井信行、川俣二郎                      (宇佐見和彦、角井信行、川俣二郎、大西稔男、橋 弘志)                      田中武夫、厚浦孝之                      &lt;空席&gt;                      橋本政彦                      篠崎 尚 [PS]                      (森 和重)                      在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム：(森 和重)、畑 宏幸、淡野武司、高岡淳二、                      星野和俊、疋田和三、藤原真理                      「虹の架け橋教室」推進チーム：(森 和重)、栗田政彦、吾郷珠子、三田浩二、千葉明子、                      (藤原真理)、他現場担当コーディネーターB/パートタイマー                      藤原照明、大西稔男、赤田 堅 [PS]、橋 弘志 [PS]                      &lt;田邊 肇=期中退任&gt;</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>小中高校国際理解教育グループ：                      産学協同プロジェクトチーム：                      留学生支援グループ：                      アジアグループ/中国デスク：                      インドネシア・インド他デスク：                      メコンデスク：                      中南米デスク：</p> </td> <td> <p>関西デスク：</p> </td> </tr> </table> <p>事務局運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ABIC創立10周年記念事業委員会をH21年9月に立上げ、記念誌「ABIC 10年史」と広報用リーフレット「ABIC 10年の歩み」の編纂、及び記念講演会の企画に取組んだ。</li> <li>●諸契約、規則・規程の整備は適宜進め得た。</li> </ul>	<p>経理・総務：                      地方自治体・中小企業支援グループ：                      外国企業支援グループ：                      大学・EC講座グループ：</p>	<p>扇 文子、(橋本政彦)、宇佐見和彦 [PS]                      高廣次郎、佐藤 徹、野津 浩 [参与/PS=新規案件開拓]                      西山勝昭                      増田政靖、森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、                      恩田英治                      角井信行、川俣二郎                      (宇佐見和彦、角井信行、川俣二郎、大西稔男、橋 弘志)                      田中武夫、厚浦孝之                      &lt;空席&gt;                      橋本政彦                      篠崎 尚 [PS]                      (森 和重)                      在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム：(森 和重)、畑 宏幸、淡野武司、高岡淳二、                      星野和俊、疋田和三、藤原真理                      「虹の架け橋教室」推進チーム：(森 和重)、栗田政彦、吾郷珠子、三田浩二、千葉明子、                      (藤原真理)、他現場担当コーディネーターB/パートタイマー                      藤原照明、大西稔男、赤田 堅 [PS]、橋 弘志 [PS]                      &lt;田邊 肇=期中退任&gt;</p>	<p>小中高校国際理解教育グループ：                      産学協同プロジェクトチーム：                      留学生支援グループ：                      アジアグループ/中国デスク：                      インドネシア・インド他デスク：                      メコンデスク：                      中南米デスク：</p>	<p>関西デスク：</p>
<p>経理・総務：                      地方自治体・中小企業支援グループ：                      外国企業支援グループ：                      大学・EC講座グループ：</p>	<p>扇 文子、(橋本政彦)、宇佐見和彦 [PS]                      高廣次郎、佐藤 徹、野津 浩 [参与/PS=新規案件開拓]                      西山勝昭                      増田政靖、森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、                      恩田英治                      角井信行、川俣二郎                      (宇佐見和彦、角井信行、川俣二郎、大西稔男、橋 弘志)                      田中武夫、厚浦孝之                      &lt;空席&gt;                      橋本政彦                      篠崎 尚 [PS]                      (森 和重)                      在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム：(森 和重)、畑 宏幸、淡野武司、高岡淳二、                      星野和俊、疋田和三、藤原真理                      「虹の架け橋教室」推進チーム：(森 和重)、栗田政彦、吾郷珠子、三田浩二、千葉明子、                      (藤原真理)、他現場担当コーディネーターB/パートタイマー                      藤原照明、大西稔男、赤田 堅 [PS]、橋 弘志 [PS]                      &lt;田邊 肇=期中退任&gt;</p>				
<p>小中高校国際理解教育グループ：                      産学協同プロジェクトチーム：                      留学生支援グループ：                      アジアグループ/中国デスク：                      インドネシア・インド他デスク：                      メコンデスク：                      中南米デスク：</p>	<p>関西デスク：</p>				

<p>会員状況</p>	<p>正会員</p>	<p>法人 ●16社、1団体（H20年度同様）：伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、協同木材貿易、興和、JFE商事ホールディングス、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順）</p>
	<p>個人</p>	<p>●7名（H20年度同様：池上久雄、寺島賢郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫（入会順）</p>
	<p>賛助会員</p>	<p>法人 ●3社（H20年度同様：(有) イーコマース研究所、(株)エックス・エヌ、キーリサーチネット(株)（五十音順。いずれも活動会員が所有する会社）</p>
	<p>個人</p>	<p>●408名（H20年度末比 49名増）…活動実績のある活動会員への勧誘をH19年度同様に実施。</p>
	<p>活動会員</p>	<p>●2,010名（H20年度末比 126名増）</p>

## 正会員の入会

個人正会員 勝俣 宣夫  
 (丸紅(株) 取締役会長)



第27回理事会・第10回通常総会

## 2010年度(平成22年度)事業計画

活動分野	主要事業	重点活動内容	H22年度目標 (延べ人数)
政府機関関連	ODA関連の人材推薦、政府機関諸事業の受託人材育成セミナー等への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外での活動：JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省領事シニアボランティア等の確保。</li> <li>国内での活動：JETRO、中小企業基盤整備機構、近畿経済産業局等の中小企業支援等の各種事業への人材推薦・紹介および受託案件の取組拡大、およびAOTS、OVTA等での研修講師派遣の受託増。文部科学省（国際移住機関）事業「虹の架け橋教室」の継続受注（済み）と円滑な運営。</li> <li>経済産業省、JETRO、JICA、外務省、文部科学省、文化庁、観光庁、農林水産省、JETRO、JICA、AOTS等とのコンタクト維持・強化。</li> </ul>	100
NGO/NPO等 非政府機関	NGO等への人材推薦・紹介、活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>NGO、他NPO、国際機関とのコンタクト強化。</li> </ul>	10
地方自治体・ 中小企業支援	自治体の国際化・中小企業の販売促進活動・海外進出・経営支援・協力中小企業への直接支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県5年目、山口県/産業振興財団4年目、山梨県/産業支援機構4年目、大分県/3年目、福岡県/3年目）との一層の関係強化。新規の年間業務委託契約の確保。</li> <li>継続支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター8年目、大阪府/東大阪市共同のクリエイションコア8年目、企業誘致アドバイザー＝宮城県6年目、兵庫県5年目、三重県・和歌山県4年目、島根県/愛媛県3年目、長野県1年目、スポット支援＝数県）との一層の関係強化。他地方自治体への積極的なPR推進の継続と受託案件の増大。</li> <li>中小企業からの直接支援要請に即応。</li> </ul>	600
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際見本市関係者とのコンタクト強化・拡大。在日大使館、外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大。</li> <li>JETROからの受託案件「対日投資関心企業に対する業種別アドバイザーの手配事業」の円滑な推進。</li> </ul>	100
教育	大学及び 社会人講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施大学・組織及びコマ数の維持・拡大、講師層の拡大(含、英語による講座拡大)。</li> <li>提案型講座の拡大。</li> <li>H18年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化（講座増、留学生勧誘協力等）。</li> <li>H15年12月に連携協力協定締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。</li> <li>H19年10月に包括提携協定締結の桃山学院大学との関係強化（講座増、中小企業国際化・人材育成支援、提携校来日研修ミッション受入れ支援等）。</li> <li>文科省二一ス対応型中東研究(一橋大中心にH18年度から5年間継続)に引続き全面的協力。</li> </ul>	350
	国際理解 教育 支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中高校への講師派遣</li> <li>在日外国人児童への日本語指導等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義・講演先の開拓。</li> <li>産学共同プロジェクトとして、関西学院大学並びに青山学院大学との協力してH19年度から実施している「高校生国際交流の集い」を継続して企画・実施。</li> <li>多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援。新宿区教育委員会「日本語指導支援（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）」支援の継続。大阪市教育委員会「日本語指導事業」への協力開始。</li> </ul>
在日留学生 支援	在日留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室の一層の充実化及びバザー、フェスティバル等の催しへの引続いての協力。鎌倉ユネスコとの協働継続。</li> <li>東京国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、通院、育児・健康・療養相談、転入手続き、入園・入学手続き等）の継続。</li> </ul>	130
国際イベント 等	国際イベント等への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>語学ボランティア活動の需要のあるイベントに適宜対応。</li> </ul>	10
その他活動・ 一般求人等	その他活動・一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学対抗英語ディベート大会への支援・協力。</li> <li>三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援の継続及び住友商事のベトナムでの日本語教育案件教師等への人材紹介（更新継続）や、他法人正会員各社の実施する社会貢献活動への人材面での支援・協力。</li> <li>帝京大学/LEC大学等への教授・講師、東京学芸大学付属中等国際教育学校事務員、科学技術交流センター事務局長、EU Institute in Japan事務局長、の契約更新継続。他、教育機関関係を主体とした新規の人材紹介。</li> <li>(独)日本観光局主宰の「善意通訳」に登録各位の活動フォローと案内拡大。</li> <li>ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力</li> </ul>	140
合 計			1,540

活動会員関係	活動会員勧誘	● 例年のABIC入会案内チラシ(活動紹介・実績付)を「ABIC 10年の歩み」リーフレットに替えて、更に積極的に勧誘を実施。社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB/OGへの配布協力の継続要請、及びOB/OG会総会等でABIC紹介の機会を貰い勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。
	賛助会員勧誘	● 引き続き、賛助会員数の増加に向け、勧誘キャンペーンを実施(H20年度は48名増、H21年度は45名増とキャンペーンが奏功)。
	活動会員スキルアップ	● 日本語教師養成講座の第8期、第9期を継続開講(H18年10月から継続)。 ● 大学等講座講師勉強会(含、英語授業法)を継続実施。 ● IT研修を他NPOの協力を得て、継続実施(H19年2月から継続)
	懇親会	● 「ABIC創立10周年記念懇親会」として東京(H22年3月26日済み)および大阪(4月23日済み)にて開催。年度後半辺りに新体制下での懇親会実施。
法人会員関係	法人会員勧誘	● 景気低迷状況下 極めて困難だが、引き続き法人会員増に向けて注力。
広報活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行(年3回 6/11/3月)</li> <li>● 日本貿易会の機関誌「日本貿易会月報」に毎号「ABICプラザ」のコーナーやJFTC News(英文)でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。丸紅グループ隔月誌のABICコーナーへの継続掲載への協力。</li> <li>● ABICパンフレット適宜手直し(H22年3月更新版発行)、英文パンフレット更新、活動会員勧誘チラシ(H22年度用に、内容を充実し「ABIC 10年の歩み」リーフレットをH22年3月発行)を適宜手直し。</li> <li>● 今年度も独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構他の主催、厚生労働省/NHK後援の「高齢者雇用フェスタ」に、ABIC専用ブースを出展し来場者にABICの活動をPR。</li> <li>● 今年度も東京国際交流館が主催する春・秋のバザーや「交流館フェスティバル」にてABICのPRや活動紹介を行う。</li> <li>● ホームページの適宜更新、一層の充実。</li> <li>● 新聞、雑誌等へのABICの露出度拡大(マスコミへの積極的対応)。</li> </ul>
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コーディネーター並びにプロジェクトスタッフの陣容見直し(増強を基本)。</li> <li>● 経理・税務・総務担当の補充(現担当の産休対策等)。</li> <li>● 昨秋に立ち上げた「ABIC創立10周年記念事業委員会」を継続し、「ABIC 10年史」の編纂・発行(5月)及び「記念講演会」(5月24日)の企画・実施に注力。</li> </ul>
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種データの整理等、業務改善への更なる注力。</li> <li>● 諸契約、規則・規程の一層の整備。</li> </ul>

## 2009年度(平成21年度)決算及び 2010年度(平成22年度)予算

(単位:千円)

科目	2009年度 決算額	2010年度 予算額
I 収入の部		
(1) 会費収入	6,935	7,110
法人会費	(4,820)	(4,840)
個人会費	(2,115)	(2,270)
(2) 受託事業収入	103,934	120,551
日本貿易会	(23,520)	(23,520)
その他	(80,414)	(97,031)
(3) 補助金収入	0	0
(4) 雑収入	86	850
収入合計	110,955	128,511
II 支出の部		
(1) 一般管理費	20,550	21,885
(2) 受託事業費	83,501	105,823
(3) 器具備品等	1,081	500
(4) 退職給付引当預金	452	257
支出合計	105,584	128,465
収支差額	5,371	46
前期繰越金	21,756	27,127
次期繰越金	27,127	27,173

## 役員等

(敬称略・就任順)

会長 (新任)	榎田 松瑩	(社)日本貿易会 会長 三井物産(株) 取締役会長
名誉会長 (新任)	勝俣 宣夫	前当センター会長、前日本貿易会会長 丸紅(株) 取締役会長
副会長	加藤 進 加瀬 豊 清水 順三 (新任) 朝田 照男 (新任) 岡藤 正広 (新任) 小林 健	住友商事(株) 代表取締役社長 双日(株) 代表取締役社長 豊田通商(株) 代表取締役社長 丸紅(株) 代表取締役社長 伊藤忠商事(株) 代表取締役社長 三菱商事(株) 副社長執行役員(6月24日社長就任予定)
理事長	三幣 利夫	(社)日本貿易会 常務理事
常務理事 (新任)	伊地知 紀仁	(社)日本貿易会 社会貢献グループ部長
理事	藤山 知彦 松井 勇巳 三輪 裕範 神子 浩二 青木 雄一 (新任) 杉田 欣二 (新任) 鈴木 秀樹 (新任) 武井 徹	三菱商事(株) 執行役員 コーポレート担当役員補佐 (社)日本貿易会 企画グループ部長 伊藤忠商事(株) 調査情報部長 双日(株) 広報部長 三井物産(株) 理事 CSR推進部長 丸紅(株) 市場業務部 担当役員付部長 豊田通商(株) 人事部社会貢献センター長 住友商事(株) 環境・CSR部長
監事	天野 正義	(社)日本貿易会 専務理事
顧問	池上 久雄 吉田 靖男	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事 前当センター理事長、前日本貿易会常務理事
参与 (新任)	宮内 雄史 野津 浩 名鏡 敬治	初代センター常務理事、初代日本貿易会社会貢献グループ部長 元当センター常務理事、元日本貿易会社会貢献グループ部長 前当センター常務理事、前日本貿易会社会貢献グループ部長

## ABIC創立10周年 — 記念事業の実施

ABICは本年4月に創立10周年を迎えました。この節目にあたり、記念事業を実施いたしましたので、ご報告いたします。

### 1. 創立10周年記念懇親会

東阪にて、ABICを支援下さっている法人・個人正会員並びに日頃ABICを活用下さっている政府機関、地方自治体、教育機関等々の方々をお招きして開催。関係各位およびABIC法人正会員・活動会員から多数の参加があり、活発な交流が行われ、盛会でした。

(1) 3月26日18:00～19:30、メルパルク東京にて開催。出席者約240名。

勝俣会長から開会挨拶があり、創立当初よりご支援・ご協力を賜ってきた各方面の方々、並びに熱意溢れる活動会員の方々に対する謝辞が述べられました。続いて三幣理事長からこれまでのABICの歩み等の報告の後、関係各位への感謝を込め、今後のABICの益々の発展を祈念して乾杯を行いました。



勝俣会長 挨拶



三幣理事長 乾杯発声

### 創立10周年記念懇親会での会長挨拶

国際社会貢献センター（ABIC）は、2000年4月に社団法人日本貿易会内に設置された後、翌年5月に特定非営利活動法人（NPO法人）に改組され、本年2010年4月に創立10周年を迎えました。これを機会に10年史を編纂・刊行できますことは、当センターにとりまして今後の更なる発展に向けた節目として、大変意義深いものと存じます。

ABICは、商社などの国際ビジネスを通じて多年にわたって培われたノウハウや豊富な人材といった知的財産を活用して、国内外で民間レベルの支援・交流活動を行いグローバルに社会貢献活動を推進することを目的として、鋭意活動を続けております。会員の熱意溢れる行動力に、関係者のご指導・ご支援を得て、着実な活動実績を積み重ねてこられましたことは、大変有難くまた喜ばしいことであります。

わが国のNPO活動は、多岐にわたる分野で急速にその存在意義が認められつつあり、その役割はますます大きく不可欠なものになっていくものと確信しております。現在、日本には約4万のNPO法人がありますが、業界団体が設立を主導したNPO法人はABICが初めてと

いってよいと思います。引き続きABICは、社会の多様なニーズに応えて、政府諸機関、地方自治体、教育機関などと協力しつつ、途上国の諸機関・団体、中小企業、日本進出外国企業、大学・小中高校、在日留学生・外国人児童・生徒などへの支援・交流を広範囲にわたって展開して参る所存です。

現在、ABICの活動会員は2千名、これまでの活動実績は延べ人数で7千名を超え、さらに拡大しつつあります。これも一重に関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げますと共に、今後も一層のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、当センターの立ち上げから今に至るまでの発展に多大なご尽力をいただいた室伏穂様（元日本貿易会会長）、寺島実郎様（初代ABIC幹事）、池上久雄様（初代ABIC理事長）、宮原賢次様（初代ABIC会長）、佐々木幹夫様（前ABIC会長）はじめ、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター

会長 勝俣 宣夫

- (2) 4月23日17:30～19:30、丸紅大阪支社講堂にて開催。出席者約110名。

深野弘行近畿経済産業局長はじめ政府・教育等関係機関並びに関西地区ABIC法人正会員、活動会員合計約110名参加。勝俣会長から開会挨拶があり、続いて来賓の深野弘行近畿経済産業局長から祝辞を頂き、三幣理事長からABICの10年の歩み等の報告の後、今後のABICの益々の発展を祈念して乾杯を行いました。



勝俣会長 挨拶



深野近畿経済産業局長 祝辞

## 2. 創立10周年記念講演会

### 「日本の進路とABICへの期待」

5月24日14:00～15:50、日経コンファレンスルームにて開催。参加者約240名。

主催：ABIC/社日本貿易会、共催：日本経済新聞社クロスメディア営業局

講師としてABICの生みの親の一人である三井物産戦略研究所会長/多摩大学学長/ABIC個人正会員の寺島実郎氏をお迎えし開催。ABIC正会員、活動会員、賛助会員、日本貿易会関係者から多数の参加がありました。

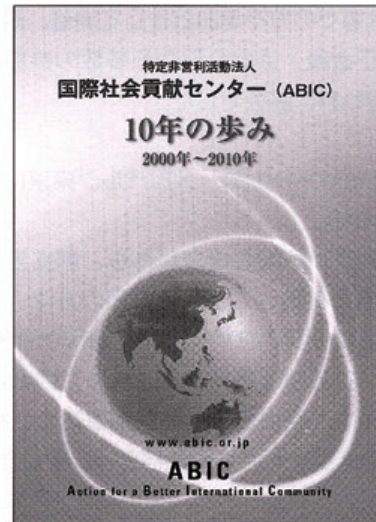


## 3. 10周年記念刊行物

### (1) リーフレット「ABIC 10年の歩み」

3月25日発行、広報用リーフレットを更新し、巻き三つ折6ページの構成として、これまでのABICの歩み、活動状況等をコンパクトにまとめました。

東阪での記念懇親会にて出席者に配布いたしました。このリーフレットは今後のABICの広報に活用していきます。



### (2) 「ABIC 10年史」

5月23日発行、42ページ。構成は、①勝俣会長の創立10周年を迎えてのご挨拶、②三井物産戦略研究所会長、ABIC個人正会員の寺島実郎氏からの祝辞、③歴代理事長、常務理事・事務局長からの寄稿、④これまでの各分野の活動状況、そして⑤資料編に10年の歩み・実績をまとめました。

5月24日に開催した東京での記念講演会にて出席者に配布いたしました。また、関係先や賛助会員の皆様へ順次送付しております。





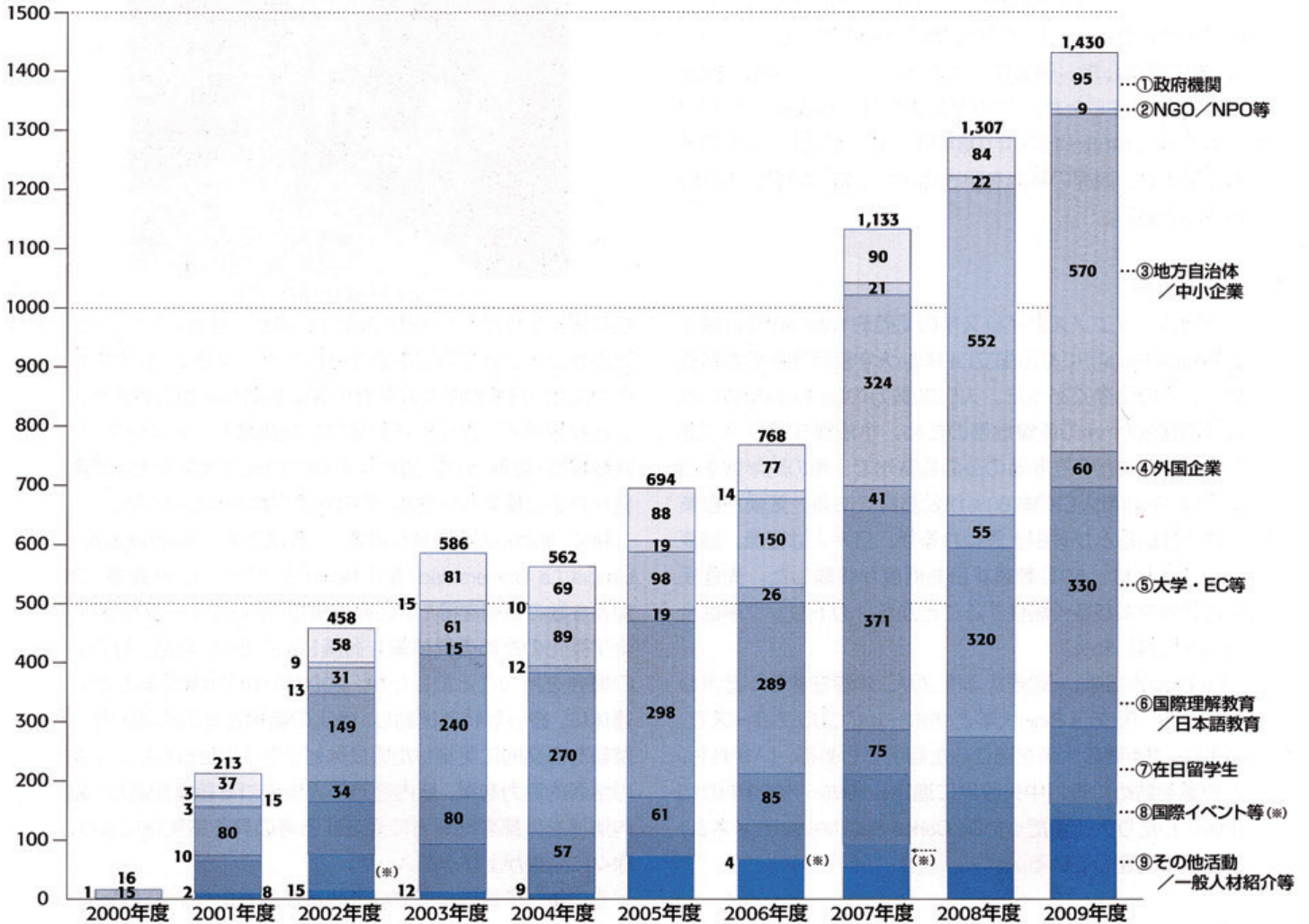
## 10年の活動実績／活動会員数推移

ABICでは、国際ビジネスや海外駐在経験豊富な商社OB等が人材登録し、国内外の様々なニーズに対し、会員を紹介・推薦・派遣しています。

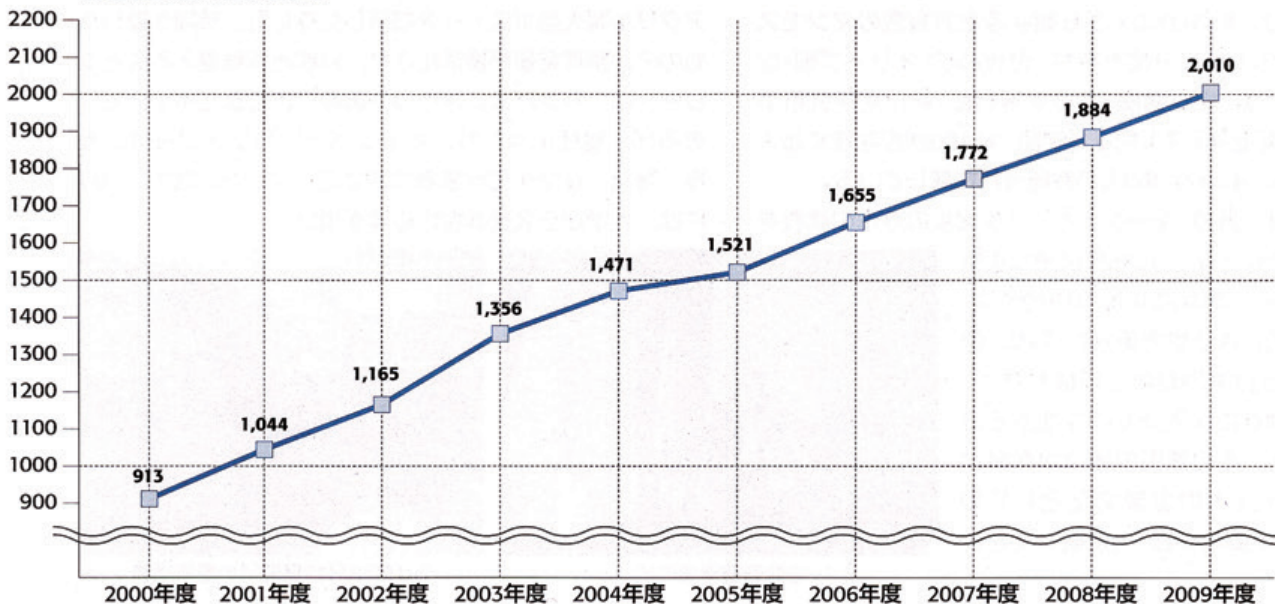
活動会員：2,010名、2009年度の活動会員の活動実績(延べ人数)：1,430名(2000～2009年度累計7,167名)。

年度毎の活動実績、活動会員の人数は下記のグラフ参照。(2010年3月末)

国際社会貢献センター (ABIC) の活動状況 (数字：活動延べ人数)



活動会員数 年度毎推移



## 政府機関関連への協力

## La Rioja (ラ・リオハ) にて

かねこ まさと  
金子 正登 (元 日製産業 (現 日立ハイテク))

アルゼンチン La Rioja (ラ・リオハ) 州での、JICA シニアボランティアとしての2年間の活動を終了し、2010年3月末に帰国した。過去に、中南米・アジア・米国・欧州に約30年居住したが、アルゼンチンは、小生にとり初めての海外 (1968~1976年の8年間) で、結婚し、2人の子供が生まれ、商売の基本を叩き込まれた特別の思い出のある国である。

## La Rioja州

今回は、ブエノスアイレス市の北西約1,200kmに位置する州都La Rioja市にある国立La Rioja大学経済学部の客員教授としての活動であった。人口30数万のLa Rioja州は、年間降雨量200mmの乾燥地帯のため、小規模なオリーブ油とワイン産業が存在するのみの極貧州で、州の約半数を占めるLa Rioja市人口の約60%が公務員である。気候が農業に適さないことが理由と思われるが、日系人は皆無。盛夏の1~2月には、50℃を越す日も何度か経験した。先住民系とアラブ系が多く居住することから、カトリック率は全土93%に対し55%。

La Rioja市には、“過ぎたるモノが二つ存在する” と言われている。国立La Rioja大学と18ホールゴルフコースで、小生が、2年間の大半を過ごした場所でもある。いずれも、州知事を勤めた後、中央政界に進出、1989~1999年の10年間にわたり大統領だったDr. Carlos Saul Menem (メネム) と密接に関連している。

## 国立La Rioja大学

元大統領在任中の1993年に州立から国立に昇格したLa Rioja大学は、約26,000人が在籍する地方有数のマンモス校で、州内5ヶ所に分校を持ち、附属高校・オリーブ畑・オリーブ油工場・総合病院・考古学博物館・新技術研究所やFMラジオ局を擁している。5学部、約100課程を擁する大学・大学院には、約1,450人の教職員が在籍している。

大学では、当初、マーケティングや貿易の基本の講義を主体に担当したが、「1945年に第二次世界大戦が終了、僅か25年後の1970年に、GDPが米国に次ぎ世界第2位になり、欧米諸国から日本の奇跡と呼ばれたが、その要因はなにか?」という学生からの質問に対し、その要因の幾つかを挙げる過程で「日本の企業文化としてのKAIZENも重要な要因」と解説したこと



メネム元大統領と筆者 (右)

が契機となり、徐々にKAIZEN主体の講義に移行していった。アルゼンチン訛りの上手過ぎないスペイン語で、日本の歴史や文化、日亜間の友好な歴史等にも触れながら講義することが好評で、大学生を対象にした講義も、大学院生・付属高校生・職員・分校・隣接する他州の国立大学や大学で開催される各種学会を含め、その対象が広がっていった。

特に、約250人の職員を対象にした講義で、“Mantengamos Limpia La Universidad (全学美化)”キャンペーンを提案、参加者多数の賛同を得た。各職場単位で、小グループを編成、全学美化のための具体策を討議してもらい、再度、打合せの機会を持つことにしたが、2008年10月中旬に訪れた三連休に、彼らが特別出勤し、各人の職場とその周辺の整理整頓を自発的に実施したのにはビックリさせられた。学長の全面的協力を得、屋内通路に大型のゴミ箱を配置し、屋内清掃を外部専門業者に委託する等の具体策実施により、徐々に効果が上がっていった。

その後、予算確保面で紆余曲折があったが、約300haのキャンパス全域に100個の灰皿を配置したり、講義室を含む屋内各所に300枚のキャンペーン認知度を高めるためのアクリル製大型ポスターを掲示したりした。時間を要したものの、整理整頓が習慣化され、以前とは見違えるほどクリーンなキャンパスになりつつある。まだまだ不十分ではあるが、離任に当たり、キャンペーンのフォローは、教授・職員・在学生の代表者に託すことにした。2010年3月には、大学から名誉教授の称号を頂いた。



生産管理学会にて



2010年3月17日開講の最終講義

## 外国企業支援

## FOODEX メキシコ企業を支援して — 雑感あれこれ

たけやま よしのり  
竹山 克則 (元 伊藤忠商事)

FOODEX 国際食品展(3月2日～5日、幕張、入場者73,556人)に、メキシコは79社が出展、大臣も含め300人近い関係者が来日し、マリアッチのライブもあり、今年も官民共に一段と力が入っていた。ABICは昨年に続き大使館・商務部(PROMEXICO)の要請で、会員13名のスペイン語ビジネス通訳(略称BBA:BILINGUAL BUSINESS ADVISOR)を派遣、メキシコ企業の対日ビジネス支援を行った。

以下は、筆者がBBAとして活動した体験と感想の一端であるが、今後、BBAとして派遣される会員の方々の参考になれば幸いである。

●担当の豚肉の出展社と“墨・豚肉・輸出者組合”と初日にブースで初めて顔合わせ。

豚肉は輸入業者が決まっており、英語も出来る人を配置。通訳の必要性は、商社・卸商よりも、小売商・レストラン・官庁・報道・一般客の方が高かった。「口蹄疫問題で、輸入はソノラ州・ユカタン州の豚肉だけ」また「墨豚は小麦・トウモロコシを餌にしている」等、メキシコ側の事情を通訳し、農水次官に説明すると「日本ではコメ豚が出ている」と大使を交え対話が弾んだ。

●来場者は住友商事、イオン、伊藤ハムの他、福岡や山口からも、また韓国バイヤーも目立つ。来客の交通整理・商談室への誘導も仕事の一つ。通訳の必要もなく打合せにも出ない、その方が顧客には好都合らしい。メキシコは豚肉輸出の80%が日本向け、2005年に組合は駐日事務所を構え日本人を配置。売上も伸び、日本の多様なスペック、顧客単位でのカスタマイズにも対応するなど実力を備えた業界である。

●豚肉の試食は、イベント会社が若い女性を数名派遣、ソブレロをかぶり、チラシを片手に呼び込み、大好評。一方、メキシコ人は商談で都内へ、夜は接待を受け疲れ? BBAは留守番の仕事。午後遅く顔を見せた出展者に、留守中の説



テキーラのブースにて  
来客の中国商人、墨出展者と筆者(右から2人目)

明をしかけると、「会社の名前は、ここでは口にしないでほしい!」と、A PIECE OF CAKE(警句)を頂いた。

●「テキーラはアルコール度が強い、日本では?」何か工夫が必要。メキシコでは“ザクロジュースと飲み、シエルト・リンドを嗅ぐ”とジュース出展者。それなら「テキーラ+ジュース+CD」のギフトボックスを作ったらと提案、受けは良かったが、このコラボが何時実現するか楽しみ。中国四川省の来訪者は、テキーラ出展者に一社毎に木製キャップをセールス・トーク中、そこで「テキーラ組合で数量を纏めると良い」と組合窓口に案内した。包装有限公司の董事長と言う彼は、“当意即妙”多謝!と紙に書き、BBAの小さな親切が喜ばれた。中国の人から見ると、出展者は格好のバイヤー、その賢さと逞しさに脱帽!

●生鮮青物見本が届かず、終日席を温めている出展者に、都内のデパートを覗いたらと勧めた。デパートのきめ細かい包装、見事なディスプレイに感動して戻り、今度は是非メキシコに来てくれと。与党PANの国会議員、現カルデロン大統領とは同じミチョアカン州の出身でMUY AMIGO(親友)、今回が初めての来日と言う。「そうだ、メキシコへ行こう」JRメキシコがあれば?の話だが。

●業者から「スペイン語は判るから、あっちに行ってほしい!」と、ぶっきらぼうにされたと同僚が語る。確かにBBAはABICと大使館との契約で、業者からの指示は?とは言え、お客様はお客様、ここは柔軟に対応する他ないと矛をおさめる。

期間中、内外の業界事情を学び、他の出展者とも交流し、刺激的で充実した4日間であった。教訓として、ビジネス経験があっても、時に深くは立ち入らず、顧客と適切な距離を保つことがBBAとして肝要であると実感した。

ABIC関係者のご指導・ご支援に多謝!



マリアッチ

## プロジェクトの受託

## 在日ブラジル人子弟の支援活動について

もり 森 和重 (ABIC中南米コーディネーター)

既に本誌24号(2009年3月)でも紹介しているが、三井物産の社会貢献の一環としての在日ブラジル人子弟の支援プロジェクトに関し実施業務の委託を受け、2005年から実施している。

1990年頃から“デカセギ”家族として来日している日系ブラジル人の学齢期の子弟約3万人は、三分の一は日本の公立学校に通学、約三分の一はブラジル人学校へ就学、約三分の一は不就学・不登校となっているが、いずれも劣悪な教育環境や生活条件の中にあり、日本語教育を含めた教育環境・生活条件の改善が求められていた。

## ブラジル人子弟への支援プロジェクトの実施(ABIC)

三井物産の支援は以下の3つの方法で行う方針を決め、ABICはその実施業務を引き受けている。①日本公立学校に通学する生徒のための漢字と算数の副教材の開発、②大小約100校に上るブラジル人学校への支援、③ブラジル系NPOを通じての不登校・不就学生徒の就学支援である。

特に力を入れたのはブラジル人学校への支援である。100近くのブラジル人学校が群馬、静岡、愛知、岐阜など各地に開校されているが、個人、有限会社、NPOなどの形態であり、日本では私塾扱いで公的な支援はない。一方、ブラジル教育省の認可を受け、本国のカリキュラムで運営されている学校が約30校(現在は50校)あったが、私立学校なので公的支援はない。よって、この中から4年間で30校を選び、教育資材、実験用具、書籍、施設のリフォームなどの要望に応じて各校5百万円(総額1億5千万円)の支援を行った。

## 学校支援から奨学金供与へ

しかしながら、2008年末から日本を襲った世界経済不況の波は、多数の在日ブラジル人労働者の派遣切りに繋がり、親が学費を払えないためブラジル人学校の生徒数が軒並み半減したため、多くの学校が経営危機や閉校に追い込まれている。一部生徒は、親と帰国したものもいるが、大



太田市のブラジル人学校 寄贈の人体模型で学習



浜松市のブラジル人学校 寄贈図書を読む生徒たち

半は自宅に閉塞しているケースが多い(日本語能力不足のため日本の公立学校への転校は少ない)。このような危機的状況解決の見通しが無いため、2009年度の支援について三井物産と協議の上、不登校・不就学の生徒を救う方法として、ブラジル人学校経由で生徒に奨学金を支給する方針を決めた。第一段階として2009年は9月から12月の4ヶ月間、従来の支援校を中心に15校を選択し、生徒170人に対し月額1万~2万円の奨学金を支給した。ブラジル人社会からは高い評価を受けたので、実施方法や管理方式も再検討し、2010年度(1月~12月)は更に12校を追加し、27校合計280人の生徒に対し支援を行なっている。

## 虹の架け橋教室プロジェクト

一方、日本政府もブラジル人失業者の急増による社会問題化に危機感を感じ、2009年初めから様々な緊急支援対策を始めた。その一環として、文部科学省がブラジル人学校の不登校・不就学の子どもに対する緊急支援のために37億円の補正予算をとり、3年間の緊急プロジェクトとして日本の公立学校への受入れを円滑にするための日本語教育を中心とする「定住外国人の子どもの就学支援事業」(通称「虹の架け橋教室」)を発表し、2009年9月に第一次公募を行った。

ABICも三井プロジェクトで支援をしているブラジル人学校から協力要請があったため、「虹の架け橋教室」プロジェクト・チームを編成し、茨城県の下妻市及び常総市のブラジル人学校2校と提携し応募した。約40ヶ所が応募し、審査の結果、22教室が認可されたが、ABICの2教室も認可を受けた。

2009年12月から2010年3月まで上記下妻市、常総市の2ヶ所で日本語支援教室(下妻教室10名、常総教室15名)

を開校した。更に、本年2月に2010年度（4月～3月）の継続事業として第三次「虹の架け橋教室」の公募があり、ABICも再応募した結果、認可42校の中に含まれた。4月から同じく常総教室（20名）、下妻教室（15名、12月につくば市に移転）を開校しており、2011年度までの2年間の継続事業となる予定である。

### ブラジル人子弟への教育支援の充実を （文部科学省の基本方針）

文部科学省は、昨年12月に中川副大臣が主宰し設置した「定住外国人の子どもの教育等に関する政策懇談会」（ABIC名鏡事務局長も参加）の提案を基に本年5月19日に「定住外国人子ども教育等に関する基本方針」を発表した。

その中では、従来ないがしろにされてきた定住外国人の子どもの教育に関し、かなり具体的かつ積極的支援の基本方針が出されている。①「公立学校での日本語指導・適応指導体制」の整備、②「修学後の受け入れ環境整備・進学や就職に向けた支援（定時制・通信制高校など）」の充実、③「虹の架け橋教室」3年間事業終了後の継続を含めた外



常総市虹教室で学ぶ生徒たち

国人の子どもが「入りやすい公立学校」の実現、④「学校外における学習支援（日本語指導）」の強化、⑤ブラジル人学校等が充実して教育内容を提供できるような「外国人学校における教育体制」の整備（各種学校・準法人化の促進のための認可基準の適正化、日本語教育の支援）など諸施策の策定を打ち出して早期実現を期待する。従来の実績を踏まえて今後ともABICの活動する場面が更に拡大するものと考え。

## 新刊紹介

### 『新・航空事業論』—エアライン・ビジネスの未来像—

いのうえ やすひ こ  
井上 泰日子 著 (ABIC会員、日本航空)

発行：日本評論社 ISBN：978-4-535-55646-1

A5版312頁 2010年4月発売 定価：2800円（税別）

世界には様々な産業があるが、航空宇宙ほど国家の力量を試される活動領域は他にない。本書は、大学生のための「航空事業」、および「航空事業」と互恵関係にある「ツーリズム」の主に国際経営戦略の点から易しく解説した教科書である。同時に、航空史上の大きな謎「何故、我が国だけが敗戦後7年近くも、同じ敗戦国であるドイツやイタリアには要求されなかった航空に関する調査、研究、教育の禁止までも含む世界の歴史に例をみない完全な包括的航空禁止令が適用されたのか」の解明、また、「航空事業（エアライン・ビジネス）の未来像」の追究にもチャレンジしたものである。

#### 【本書の構成】

##### 第1部 航空事業

第1章 航空の歴史

第2章 規制緩和とオープンスカイ政策

第3章 低コスト航空会社

第4章 航空会社間の提携

第5章 航空事業と航空政策

第6章 航空貨物

第8章 地球環境

第9章 航空事業の基本構造

第10章 空港

第11章 国際航空法

第12章 航空機の進化と国際政治

第13章 エアライン・ビジネスの未来像

##### 第2部 ツーリズム

第14章 ツーリズムの基本構造

第15章 オープンな国を目指して —鎖国政策と外国人留学生受入の課題—

第16章 シンガポールの国家戦略 —ツーリズムの視点から—

### 新・航空事業論

A VISION OF THE AIRLINE BUSINESS  
エアライン・ビジネスの未来像

井上泰日子 著

「航空宇宙ほど国家の力量を試される活動領域は他にない」

しほ波動の真ん中にある  
エアライン・ビジネスの歴史、現状、未来を解説

ISBN 978-4-535-55646-1

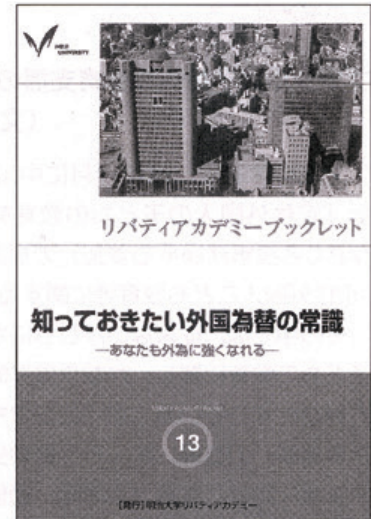
## 教育

## 『知っておきたい外国為替の常識』 明治大学リバティアカデミー発行 —ABIC講師による外国為替の教科書、今年も継続発行

ABICでは2002年以来、明治大学リバティアカデミー（明治大学・御茶ノ水校舎での社会人講座）で「外国為替の基礎」の講座を担当してきている。折からの外為ブームもあって学生はもとより社会人・主婦等の受講者より毎年好評を博している。

5年前より同アカデミーは講義用配布資料としてブックレット（教科書）を発行しており、受講者以外も購入できるようになった。ブックレット⑬『知っておきたい外国為替の常識 —あなたも外国為替に強くなれる—』（税別740円）の今年の改訂版は、従来からの木村好作（元三菱商事）・石橋満（元丸紅）・村林榮彦（元日商岩井）と海外転勤となった森川建夫（元住友銀行）に代わって鈴木成高（元東京三菱銀行）の4講師が、基礎知識、変動の背景、為替リスク、国際収支の全4章を分担執筆した。外為の入門書としてご家族やご親類にご紹介下さい。

編集／発行：明治大学リバティアカデミー 発行日：2010年3月31日  
（大学講座等コーディネーター 増田 政靖、恩田 英治）



### 新刊紹介

## 『「開かれた地域主義」と アジア太平洋の地域協力と地域統合

～APECの適切性と親和性についての実証的研究～

星野 三喜夫 著（新潟産業大学教授、ABIC会員、元 東京銀行）

発行：パレード ISBN：978-4-939061-28-8 A5版240頁

定価：3800円（税別） 2010年6月1日発売



鳩山前首相は昨年9月の就任に際し「東アジア共同体」設立を国家目標に掲げたが、本書は、この地域の統合や共同体は民主主義や人権等の普遍的価値の擁護・追求と、政治・安全保障の問題が極めて重要との視点から、米国もこれに加わって、アジア太平洋を包摂するAPEC（アジア太平洋経済協力会議）をプラットフォームとして地域統合を構築するのが望ましい、と主張する。この地域で想定される統合体や共同体が仮に普遍的価値を犠牲にしたり、安全保障を蔑ろにするものであった場合、その「ツケ」を一番被るのは日本であると力説する。

この地域の統合や共同体の設立は情緒的な懐疑論に流れがちであるが、地域の多様性や差異ばかりに目を向けて、「東アジアでEUのような共同体などできる筈がない」と否定的に捉えるのは地域の実体を捉えておらず、合理的でないことは本書を一読すれば合点がいく。著者は、この地域にはこの地域流のまとまり方があって良いのであり、現在確実に進んでいるde facto（事実上）で機能的な経済協力や経済統合を、比較的早い段階で制度的枠組みに昇華させることは可能だと主張する。

本書は、この地域の統合の土台としてなぜAPECが相応しいかをAPECの適切性・親和性仮説と名付けて、これを実体面と理論面の両方から実証的に論考している。2010年の今年に日米安全保障条約締結50周年に当たり、また日本がAPEC議長国となり（11月の横浜会議）、さらにAPECの貿易・投資の自由化（ポゴール目標）の達成年という節目の年である。地域統合におけるAPECの適切性、親和性を議論する本書はその意味で極めてタイムリーである。東アジアの統合や共同体に興味と関心をお持ちの方にはぜひ一読をお勧めしたい良書である。

（通販の「アマゾン」等にて送料無料で購入可能）

## 留学生支援

## 東京国際交流館 春の新人館者歓迎バザー

五月晴れと潮風が心地よい5月15日、ABICの留学生支援拠点であるお台場の東京国際交流館で、新しく入館した留学生とその家族の便宜を図るためバザーが開催されました。

このバザーの運営には、同館に在住の日本人学生や、交流館職員、ABICの会員がそれぞれの役割を分担し参加しました。中庭広場には沢山の衣料品、家庭用品等が並べられ、また外国人留学生とその家族によるお国自慢のファーストフード店や子供たちのプレイランドも出現しました。広場のあちこちでは日本語広場や文化教室の講師と留学生家族との話の輪ができ、皆久しぶりの陽光を浴びながら午後のひと時を楽しんでいました。

バザーでは多くの支援企業とその社員の方々、日本貿易会職員やABIC会員から400箱を上回る物品の寄贈を頂き、売上は27万円を超えました。これは従来通り交流館の留学生イベント支援等に充当されます。ご支援いただいた皆さまには深く感謝申し上げます。

(ABIC留学生支援グループ)



## 新刊紹介

## 『アフリカに賭ける ～ある商社マンの痛快人生～』

みせ かつひこ 著 (ABIC会員、元三菱商事)

彩流社刊 ISBN978-4-7791-1531-8 C0023

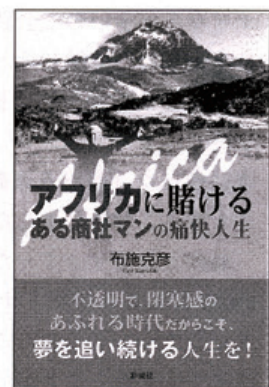
四六判/228ページ 定価：1900+税 2010年5月刊行

この本の主人公は、清水 孝というひとりの商社マンである。彼は著者の会社時代の先輩であった。特に目立ったビジネスの成果を挙げた人ではない。高い地位に出世した人でもない。かといって変人でもない。仕事をまじめにこなし、家族への責任も果たした。どこにでもいる、ふつうのサラリーマンなのだ。

それでも清水は、一冊の本になるようなスケールの大きい人生を送った。彼は少年時代に夢を持った。それは誰にもあることだが、その夢を育み続けて一生を過ごす人はそういない。夢を具現化する目標を、常に高めに設定する。他人の前で大風呂敷を広げて、自らを追い詰める。後は並はずれたエネルギーを注いで、目標の実現に向かって邁進した。

清水が夢を追い求めた舞台がアフリカだった。商社時代の海外駐在地も、独立後のビジネス拠点も、常にアフリカだった。彼はアフリカの風土と、そこに暮らす人々に魅せられた。アフリカの大自然に感激し、人々との触れ合いに究極の喜びを得た。

貧困、飢餓、戦争、エイズなど、現代のアフリカは負のイメージで覆われている。そんなアフリカの、どこにも魅力があるのだろう。清水はアフリカに拘り続け、人生の軌跡を逸脱することなく、前を向いたままアフリカで死んだ。彼の痛快な人生の物語を、多くの人に知ってもらいたくて、著者はこの本を書いた。



## エッセー

## 日本語教師としてベトナムへ

すずき これたか  
鈴木 惟高 (元 伊藤忠商事)

私はABICが実施している日本語教師養成講座の第一期生で、昨年末惜しくも御逝去された吉田裕先生に教わりました。先生はこれまで日本語を教えた実績が無い私がベトナムに赴任するのを大変ご心配して下さい、特別に個人指導をして下さいました。心から感謝しております。また先生の御指導の下、ABICが東京国際交流館で実施している外国人留学生向け日本語授業を見学させて頂き、御担当の先生方からも種々実践的な御指導を受けることができました。

私はABICのご紹介で昨年12月より本年3月末まで日本語教師としてベトナムに赴任しました。ベトナムの中部都市ホイアン（世界遺産）近郊にあるカンナム省立北カンナム職業訓練専門学校で「日越溶接技術交流センター」（以下JVWC）が溶接技術を指導する職業訓練コースで日本語を教えるためです。

生徒は工業専門高校を卒業した12人の男子でした。まさに24の瞳です。JVWCのコースは今年で三年目ですが（初めの2年間は女子生徒がいたのですが第三期生は男子のみ）、6カ月間で日本語検定試験4級程度の学力をつけること、特にベトナム人はシャイな人が多いので会話重視で積極的に日本語を話せるようにして欲しいとの要請を受けました。

教材としては当初は標準的な「みんなの日本語」を使うつもりでしたが、結局ABICの養成講座のときに使った「新日本語教科書初級」（36課）をメインとすることにしました。

私にとってラッキーだったことは日本語検定試験4級の資格をもつベトナム人美人女性がアシスタントとしてついてくれたことです。なんでも相談して授業をすすめることができました。適宜生徒達と話をし、不満な点を聞き出してもらい授業を改善してゆくことが可能でした。

初め心配だったのは果たして生徒達が真面目に授業を受けてくれるのか、また1日3時間の授業を飽きさせずに続けていけるのかということでした。でもそれは杞憂に過ぎませんでした。生徒達は日本に行って溶接の仕事をしたいという明確な目的意識を持っていましたので一生懸命勉強してくれました。

新しい課に入るときは、初めにアシスタントにポイントを指示し、丁寧に生徒に教えさせました。テキストは例文、練習問題、会話からなっていました。



日本語教室の生徒たちと 筆者（前列右から二人目）

が、全て暗記させ、テキストを見ずに黒板に書けるようにさせました。生徒達は積極的に手を挙げ課題に挑戦してくれるので楽でした。クラスには特に優秀な生徒が数人おり、どんどん先の課の予習をしていくので、それが他の生徒達を刺激していくといううれしいムードがありました。

歌が効果的だと教わったので毎日練習させました。「幸せなら手をたたこう」「上を向いて歩こう」「星影のワルツ」を歌えるようになりました。ベトナム人がシャイだというのはどうも本当ではない気がします。私は発音は相当厳しく矯正しましたが、生徒達は悔しそうな顔をしながら何度も挑戦し遂に私がOKといって大袈裟にほめるととてもうれしそうに笑うので本当に可愛いと思いました。

1週間が過ぎた頃、校長先生から教職員にも日本語を教えて欲しいと頼まれ、毎日1時間26人の教職員に教えました。挨拶と「あいうえお」に重点を置きました。校長にも遠慮せず発音を矯正しましたが、校長が率先して恥をかこうとする態度に感銘を受けました。残念ながら先生方が仕事が忙しくなり2週間で終了せざるを得なくなりましたが、御蔭で私はすべての先生方に毎日丁寧な挨拶を受けることになりました。ただ先生方も英語が殆ど話せないのにはびっくりしました。

現在、日本とベトナムは大変良好な関係にありますが、世界的な経済不況の中で、日本の溶接（鉄骨加工）業界はとてつもない厳しい状況にあります。でもこの愛すべき生徒達が日本に来るときはできるだけの手助けをしたいと思っています。

なお本コースは本年5月末まででしたが諸般の事情により、私は3月末で帰国させて頂きました。



## 2010年度ABIC事務局組織

6月1日より下記の体制となりましたのでお知らせ致します。

理事長	三幣 利夫 さんべい としお
常務理事・事務局長	伊地知 紀仁 いじち のりひと
事務局 (1名)	道家 千波 (7月から1年間休職)、眞田 照子 どうげ ちなみ (7月から1年間休職)、まぎだ てるこ mail@abic.or.jp
コーディネーター(17名)/プロジェクトスタッフ(5名)	
( )は兼務者 [PS]はプロジェクト スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総務・広報・OA 扇 文子 おうぎのみこ</li> <li>●経理 橋本 政彦 はしもとまさひこ</li> <li>●自治体・中小企業支援グループ 高廣 次郎、佐藤 徹 たかひろ じろう さとうとおる smesupp@abic.or.jp</li> <li>●外国企業支援グループ 西山 勝昭 にしやまかつあき support@abic.or.jp</li> <li>●大学等講座グループ 増田 政靖、森 和重、猪狩 眞弓、布施 克彦、谷川 達夫、恩田 英治 ますだ まさやす もりかずしげ いがり まゆみ ふせ かつひこ たにがわたつお おんだ ひではる univ@abic.or.jp</li> <li>●中高校国際理解教育グループ 川俣 二郎、角井 信行 かわまた じろう かくい のぶゆき krikai@abic.or.jp</li> <li>●留学生支援グループ 田中 武夫、鍛形 勲 たなか たけお くわがたいさお odaiba@abic.or.jp</li> <li>●アジアグループ 中国デスク 中国デスク china@abic.or.jp インドネシア・インド他デスク インドネシア・インド他デスク indo-desk@abic.or.jp メコンデスク メコンデスク mekong@abic.or.jp</li> <li>●中南米デスク chunanbei@abic.or.jp</li> <li>●関西デスク kansai-desk@abic.or.jp 藤原 照明、大西 稔男、赤田 堅 [PS]、橋 弘志 [PS] ふじわらてるあき おおにしとしお あかだ たけし たかはひろし</li> <li>●産学共同プロジェクト 角井 信行、川俣 二郎、大西 稔男、橋 弘志 [PS] うさみ かずひこ</li> <li>●10周年記念事業関係等 宇佐見 和彦 [PS] うさみ かずひこ</li> <li>●新規案件 野津 浩 [PS] のつひろし</li> </ul>

### e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mail アドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。  
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5979

## 新入会員（正会員）紹介

個人正会員 6月入会 勝保 宣夫氏（丸紅㈱）取締役会長）

### 会員入会のお願

国際社会貢献センター（ABIC）の活動にご賛同頂き、会員として資金的援助をしていただける個人の方や企業、団体のご入会をお願い申し上げます。

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 一口 50,000円
		個人 一口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。	法人及び団体 一口 10,000円
		個人 一口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

#### 正会員

団体・法人（17社）〈社名五十音順〉 〈10口〉 (社)日本貿易会 伊藤忠商事㈱ 住友商事㈱ 双日㈱ 豊田通商㈱ 丸紅㈱ 三井物産㈱ 三菱商事㈱ 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業㈱ 岩谷産業㈱ 長瀬産業㈱ 阪和興業㈱ 〈1口〉 協同木材貿易㈱ 興和㈱ JFE商事ホールディングス㈱ 蝶理㈱

個人（8名）〈入会順・敬称略〉 池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次  
吉田 靖男 岡 素之 佐々木 幹夫 勝保 宣夫 〈3口〉

#### 賛助会員

法人（3社） (有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ キーリサーチネット㈱

個人（416名）〈敬称略・氏名五十音順〉 〈5口〉 北條弘司 〈4口〉 上中庸隆 〈2口〉 荒木道介 上田博晟 遠藤寿一 及川洋 小川秀洋 小寺真行 鬼山敬邦 川上直久 川俣二郎 久佐賀義光 公平伸夫 志岐明弘 志岐真弓 新藤哲雄 千田英樹 高廣次郎 多田勝彦 田中武夫 綱川渡 東宮邦雄 原芳道 坂東寛隆 肥後照雄 日野勝子 藤井吉郎 藤井真 福田洋子 前田耿史 前田茂 牧村恢臣 松村茂 三木紀元 宮内雄史 名鏡敬治 柳沢信義 八幡暁彦 山田芳正 山本一良 山本寧雄 〈1口〉 会川精司 相原正和 青木一夫 赤田堅 芦刈茂樹 芦田均 東光子 安達晋 厚浦孝之 安福哲一 阿部恭一 安部忠 阿部徹 阿部雅志 荒尾紀倫 有田五郎 有田捷一 居内律治 庵原専三 伊賀豊和 伊賀山欣也 猪狩真弓 生島幸哉 池崎元彦 石川清 石川義夫 石田錠二 石橋満 一色修二 伊藤栄太郎 伊東孝之 伊東泰 伊藤裕基 稲永丈夫 稲本卓三 井上邦彦 井上宏 井上行芳 井上良彦 射場和行 今井明良 今井宏 今井正孝 今田利征 岩本洋之 上田勲 植田俊 上野和郎 上野日出雄 上森義美 宇佐見和彦 薄葉徹郎 宇田定三 内川博文 内田康治 漆崎隆司 江藤茂雄 榎本盛明 榎本啓一郎 江幡吉信 海老原茂 扇文子 大久保浩司 大久保徳衛 大倉芳郎 大浩義之 太田宏 大塚昭雄 大西稔男 大道豊彦 大森日出太郎 岡田一茂 岡田恵二郎 岡部紘 岡部好夫 岡本正 岡本靖彦 小川洋志郎 小川晴久 小口良喜 小國輝雄 奥山正裕 小沢規夫 小澤清水 小野勝彦 小野勝 小畑克之 小船井達夫 表尚志 恩田英治 角井信行 風間誠 片岡紀二 片野無事生 片山丈義 勝部實 加藤正芳 加藤克 金井好弘 嘉根俊治 金子康之 金子義久 神谷誠一 辛島洸 加輪上敏彦 川嶋則男 川副和之 川村哲也 川本恒彦 岸達也 北詰良三 吉川和夫 絹巻康史 木村好作 木村滋 木村秀志 清宮信男 久木田修司 楠井裕章 梶座武敏 久保田堅一 久保田隆 久保山毅 隈元泰弘 久山周孝 倉又則夫 黒岩浩一 黒岡誠一 鍬形勲 国分利敬 古園井良 児玉正博

小島孝治郎 小林庄右工門 小峯征三郎 小室洋三 近野治夫 齋藤勝吉 酒井栄造 坂井啓治 酒井邦展  
 坂上恵一 坂本俊寛 崎貢 作田幸夫 笹岡治男 佐藤徹 佐藤宏 佐藤充宏 佐藤隆二 佐良木忠男  
 沢田修吾 澤田史郎 澤田豊治 石束吉孝 塩野寛次 七字道彦 篠崎尚 篠田正義 島悠紀夫 城台巖  
 白土茂雄 城田比佐子 水光勲 須賀直比古 杉山博 鈴木一三 鈴木惟高 鈴木孝尚 鈴木紘司 鈴木松子  
 関晃典 関統造 関仁 関米勝 関口幸男 関本喜茂 曾我典夫 園田真一 醍醐俊明 高木俊彦 高木裕昭  
 高崎浩敏 高嶋宏臣 高嶋正文 高田維有 高田忍 高田弘 鷹津俊一 高塚謙次 高梨和彦 高柳貞男  
 竹下浩 竹田信志 竹山克則 田島一靖 田島義彦 橋弘志 立石揚志 田中昭彦 田中功 田中剛 田中徹郎  
 田中稔也 田中朋子 田邊正明 谷川達夫 谷口武彦 田内裕 玉木興晶 丹治敬 淡野武司 千野滋樹  
 千葉紘 千原長美 塚谷正彦 辻萬亀雄 辻尾嘉文 津田道夫 土屋英五 都築秀之 坪井哲夫 坪井雅敏  
 津守克平 手塚正明 寺澤昌敏 遠山晃 戸川順治 富島紘一 友國洋 中倉弘紀 中島幸太郎 中島隆一  
 中島宏機 長瀬正男 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 中西康孝 中野英俊 中野正義 永峰千年  
 中村昂 中村紀雄 中村恭紀 中山文麿 梨本進 那須一貴 西澤俊一 西村寿浩 西山勝昭 西山慈恩  
 新田充成 根岸史修 野口順一 野津浩 信森勝治 野村哲三 則満洋祐 萩谷敦 橋本裕一 橋本政彦  
 橋本勝 蓮沼恒郎 畑宏幸 花澤和郎 羽生憲夫 浜田元雄 林進 林常介 林良英 葉利博 日笠徹 菱川治  
 日比野圭三 平田一男 平野實 広瀬真市 廣田幸男 福井隆治 福岡健 福島斉 福田繁 藤井健一朗  
 藤井希祐 藤井重隆 藤井則雄 藤川一弘 藤田敬子 藤田卓 藤田幸雄 藤村登 藤原照明 布施克彦  
 古瀬輝明 古橋肇 保坂庄司 星野和俊 星野三喜夫 細野良敦 堀江博 堀岡太木生 前田喜章 前田祥治  
 前田直明 増田孝次郎 増田政靖 増本光男 松井清治 松浦義則 松岡壽夫 松下敏明 松田洋三郎  
 松村直治 松本信司 松本時男 松山功 松山久 眞弓博司 丸山松男 三上亜佐橘 三木喜道 翠政之  
 水川久夫 味田村正行 三栗敏 光山武志 南賢 峯本晴輝 宮内貴正 宮川正裕 宮崎善嗣 武藤滋郎  
 村井靖武 村岡信明 村上紹夫 村上哲良 村瀬和男 村瀬憲治 村瀬省三 村林栄彦 望月孜 森悦郎  
 森和重 森達也 森川建夫 森松直毅 安田勤 柳田敏明 矢野清一 矢野裕明 山内幸雄 山岸正雄  
 山口健 山田雅司 山田恭暉 山邑陽一 山本啓二 山本秀一 山本博勝 湯浅康生 萬木寛 横井正豊  
 横田陟 横田淑子 横溝肇 横山泰雄 吉川正男 吉田紘 吉田房子 吉田泰興 吉富茂隆 李栄 鷲頭三郎  
 渡邊健三

**賛助会員入会のお願い** ABICの活動の一層の拡大に向けて賛助会員へのご入会を是非共お願い申し上げます。

**活動会員** 2,021名

(2010年6月現在)

### 【ABIC会員入会のご案内】

ご入会はABICホームページ (<http://www.abic.or.jp/>) の「会員入会案内」をご参照の上、「活動会員登録票」を下記連絡先(東京)へeメールまたは郵送にてご送付下さい。「賛助会員ご入会」は入会申込書に必要事項ご記入の上、下記へ郵送願います。

### 【ABICの人材紹介・推薦】

ABICは海外経験・知識が豊富な商社OB等の人材を、国内外の様々な分野における活動に紹介、斡旋、推薦しております。人材についてのご相談、お問い合わせは、下記の事務局(東京)へご連絡下さい。

### 〈お問い合わせ・連絡先〉

#### 特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

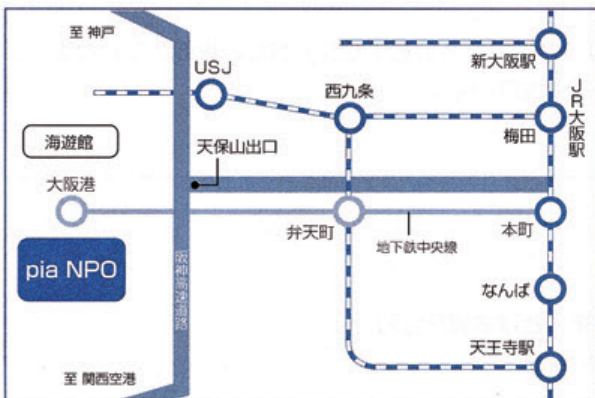
〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6F (社)日本貿易会内

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5979 E-mail : mail@abic.or.jp



〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6F  
 社団法人 日本貿易会内  
 TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5979  
 E-mail : mail@abic.or.jp

浜松町駅 (JR山手線・京浜東北線 / モノレール羽田線)  
 大手町駅 (都営地下鉄 大江戸線・浅草線)



#### 関西デスク

〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 403号室  
 TEL・FAX : 06-4395-1188  
 E-mail : kansai-desk@abic.or.jp

大阪港駅 (大阪市営地下鉄 中央線)